

将来を展望した 小中学校のあり方を検討

旭市学校のあり方検討委員会が提言書を提出

旭市学校のあり方検討委員会から教育委員会に対し、小中学校のあり方に関する提言書が提出されました。

この検討委員会では平成28年7月から2年にわたり、将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境とは何かを第一に、小中学校の適正規模・適正配置について検討を重ねてきました。教育委員会はこの提言に基づき、更なる検討を進めていきます。

提言書の概要は次のとおりです。

適正な規模

小学校では多様な考え方を持つ児童が出会い、その中で社会性・協調性を培い、互いに学びふれあい、切磋琢磨しながら人間関係を形成していくことが重要なため、クラス替えが可能な12～18学級(1学年2～3学級)を望ましい適正規模としました。

中学校では小学校と同様に、さまざまな人間関係に配慮した学級編制や、教科指導を充実させるためのバランスの取れた教員配置が可能で、部活動や学校行事でも切磋琢磨する環境をつくることのできる、12～18学級(1学年4～6学級)を望ましい適正規模としました。

適正な配置

現在の旭市において、望ましい適正規模となっている学校は、小学校では15校中1校、中学校では存在していません。このため小中学校共に望ましい適正規模である、12～18学級の学校を念頭に置いた適正配置を検討することが重要です。

ただし単に現在の学校の規模だけではなく、学校を取り巻くさまざまな現状や、児童生徒数のより詳細な将来予測などを踏まえ、将来に向けて学校の良好な教育環境を維持していくという長期的な視点に立ち、学校の望ましい適正規模を安定的に維持できるようにすることを、念頭に置く必要があります。



あり方検討委員会から提言書が手渡される

※この提言書の全文は、市ホームページで見ることができます。くわしい内容は、庶務課施設班(☎55-5722)まで問い合わせてください。

教育委員会コラム

第4回



市内小中学校の 状況

教育委員会委員
石毛丈康

私は平成27年8月より、保護者代表としてレイマン(素人)の立場から教育委員会に携わり、約3年が経過するところです。毎年、小中学校20校を学校訪問し入学式、卒業式、運動会にもお招きをいただいております。当市には小規模から大規模の学校が存在し、環境はイコールではありませんが、その地域性に応じた運営がなされていることは、各校長からの経営説明で伺い知ることができます。自校の問題点についても教職員全体で共有し、解

決に向けて取り組んでいる様子も感じることができます。

ひと月ほど前に市内の小学校10校で運動会が開催されました。そこでも各校趣向を凝らした準備の結果、各所で子どもたち、父兄たちの笑顔のまぶしい一日となりました。例えば、教職員がおそろいのシャツで一体感を表現、父兄の応援席前を通過する徒競走のコース取り、熱中症指数計の小まめなチェックによる危機管理対策など、学校側の努力には感心させられます。アンケートでも学校が楽しいと回答する子どもたちが、大多数を占めるのも納得ができます。

しかしながら学校側でも制約の難しいことの一つにスマホ・携帯電話の問題があります。使用方法の注意喚起までにとどまってしまうことが実情のようです。今では生活必需品になっていることは言うまでもありませんが、使い方を誤ると犯罪やいじめ問題にも直結してしまう怖さもあります。この点については学校任せにするのではなく、家庭で子どもと話し合い、使用のルール作りをしていただきたいと思います。

学校訪問の度に、多くの子どもたちは「素直で優しい」という印象を受けます。当市の宝が希望を持ち、健やかに成長していくことを願ってやみません。